

令和4年度
西川町教育委員会事務事業点検・評価報告書

令和5年9月

西川町教育委員会

令和4年度 西川町教育委員会事務事業点検・評価報告書

1	教育委員会事務事業点検・評価	1
2	教育委員会の活動状況	
(1)	教育委員会委員	2
(2)	教育委員会の活動	2
3	教育委員会の活動状況に対する教育事務評価委員の意見	4
4	教育委員会事務事業に係る施策の体系	
(1)	教育委員会事務事業に係る計画の関連性	5
(2)	西川町教育大綱の概要	5
(3)	4つの基本的方向性	5
(4)	西川町教育振興基本計画施策展開体系図	6
5	事務事業点検・評価シート（8つの主要施策）	
(1)	「生きる力」の確実な育成	7
(2)	生涯の各段階を通じて推進する取組	11
(3)	社会的・職業的自立に向けた力の育成	13
(4)	意欲ある全ての者への学習機会の確保	14
(5)	新たな価値を創造する人材・グローバルな人材の育成	17
(6)	互助・共助による活力あるコミュニティの形成	19
(7)	生涯学習と生涯スポーツを通じた交流と地域・組織づくり	22
(8)	自然や文化を生かした地域づくりの推進	25
6	教育事務評価委員の意見（総括）	27
7	西川町教育大綱に基づく「第1次教育振興基本計画(後期プラン)」の 施策評価から	28

1 教育委員会事務事業の点検・評価

◇はじめに

西川教育委員会では、平成 28 年 3 月に策定した教育大綱で、「自立」「協働」「創造」を基軸とした生涯学習社会の構築を目指す。」を掲教育目標に掲げ、「社会を生き抜く力の養成」「未来への飛躍を実現する人材の育成」「絆づくりと活力あるコミュニティの形成」「自然と文化を生かした心豊かな人づくり」を 4 つの基本的方向を柱に定めました。

また、令和 3 年 3 月には、令和 5 年度までの 3 カ年を対象期間とする西川町教育振興基本計画を改定し、上記の 4 つの基本的方向を実現するために 8 つの主要施策と 20 の重点施策を体系化し、各種事業を展開しています。

この度、地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づき、令和 4 年度に実施した事務事業について点検評価を行い、効率的な教育行政の推進及び町民に説明責任を果たすため、西川町教育事務評価委員の皆様からの意見をいただき、その結果を報告書としてまとめました。

◇点検評価の方法

(1)教育委員会事務局職員による内部評価

西川町教育振興基本計画施策展開体系図に基づき、8 つの主要施策と 20 の重点施策毎に、令和 4 年度に実施した事業内容、その成果と課題、今後の方針について、内部点検評価を実施した。

(2)西川町教育事務評価委員からの意見

客観性を確保するため、西川町教育事務評価委員（外部評価委員）に内部評価の説明を行った後に、事業内容や今後の方向性等についてご意見をいただいた。

(3)報告書作成

教育事務評価委員からの意見も入れ込んだ事務事業点検報告書を作成

(4)西川町教育委員会での審議

事務事業点検報告書について町教育委員会で審議

(5)公表

町議会への報告及び町民への公表

◇西川町教育事務評価委員

氏名	役職名等
荒木 良弘	西川町社会教育委員
荒木 美知子	前小学校教諭
西谷 泰典	西川小学校 P T A 会長

◇西川町教育事務評価委員会の開催内容

第 1 回目：令和 5 年 6 月 20 日 内部評価した内容について説明を行った。

第 2 回目：令和 5 年 7 月 5 日 意見をいただいた。

2 教育委員会の活動状況

(1)教育委員会委員

職名	委員名	任期
教育長	前田 雅孝	令和 3 年 4 月 1 日 ~ 令和 6 年 3 月 31 日
教育委員	阿部 仁	令和 2 年 10 月 1 日 ~ 令和 6 年 9 月 30 日
教育委員	近松 和朗	令和 元年 10 月 1 日 ~ 令和 5 年 9 月 30 日
教育委員	大泉 奈緒子	令和 3 年 10 月 1 日 ~ 令和 7 年 9 月 30 日
教育委員	高橋 美保	令和 4 年 12 月 23 日 ~ 令和 8 年 12 月 22 日

令和 5 年 3 月 31 日現在

(2)教育委員会の活動

①会議の開催

開催日	種別	議 事
4 月 26 日	定例	議第 1 号 令和 4 年度西川町学校教育センター職員の任命について 議第 2 号 西川町スポーツ推進委員の委嘱について 議第 3 号 西川町社会教育委員の委嘱について 議第 4 号 令和 4 年度西川町立小学校の要保護・準要保護児童の認定について
6 月 2 日	定例	議第 5 号 西川町教育支援委員会委員の委嘱について 議第 6 号 西川町文化財調査委員会委員の委嘱について 議第 7 号 西川町公民館職員の任命について 議第 8 号 西川町公民館運営審議会委員の委嘱について 議第 9 号 西川町地域学校協働活動運営委員会委員の委嘱について
6 月 21 日	定例	なし
7 月 26 日	定例	議第 10 号 令和 5 年度使用教科用図書の採択について 議第 11 号 西川町立西川小学校の要保護・準要保護児童生徒の認定について
8 月 24 日	定例	議第 12 号 令和 3 年度西川町教育委員会事務事業点検・評価の報告について
9 月 27 日	定例	議第 13 号 令和 5 年度学級編制届出書について 議第 14 号 令和 4 年度要保護・準要保護児童生徒の認定について
11 月 2 日	定例	なし
11 月 22 日	定例	なし
12 月 20 日	定例	なし

開催日	種別	議 事
1月25日	定例	議第15号 令和5年度西川町立西川小学校及び西川町立西川中学校の入学予定者について 議第16号 令和5年度河北町立小学校への区域外就学の承諾について
2月21日	定例	議第17号 令和5年度西川町一般会計予算(案)(教育費)について 議第18号 西川町育英奨学資金貸与条例の一部を改正する条例の制定について 議第19号 令和5年度寒河江立中学校への区域外就学の承諾について 議第20号 令和5年度西川町教育委員会委員の学校訪問について
3月7日	臨時	議第21号 令和5年度西川町立小中学校職員の人事異動内申について
3月22日	定例	議第22号 西川町育英奨学資金貸与条例施行規則の一部を改正する規則の制定について 議第23号 西川町教育委員会教育長に対する事務委任規則の一部を改正する規則の制定について 議第24号 西川町育英奨学資金運営審議委員会委員の選任について 議第25号 令和5年度西川町立小中学校の学校医、学校歯科医及び学校薬剤師の委嘱について 議第26号 令和5年度西川町教育委員会所属職員の人事異動について

②総合教育会議

開催日	協 議 案 件
11月2日	教育大綱・教育振興基本計画の策定について
3月22日	教育大綱の骨子について 教育振興基本計画策定について

③ 学校訪問

実施日	内 容	場 所
6月2日	学校経営概要説明・授業参観・教職員との懇談	西川中学校
6月21日	〃	西川小学校

※教職員との懇談会の際は、「たくましさ」について意見交換を行った。

④その他(行事・研修等)

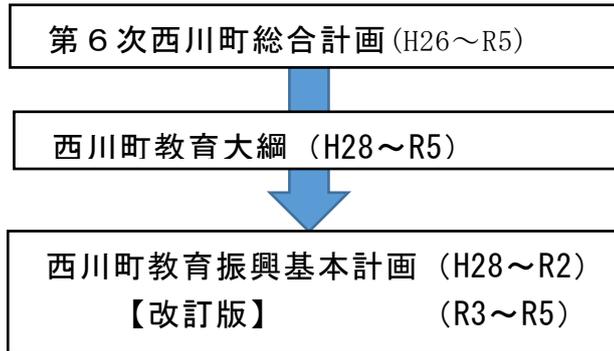
実施日	内 容	場 所
4月 1日	教職員辞令伝達式	西川町役場
7月 7日	西村山市町教育委員会連絡協議会総会・研修会 【研修会】テーマ「部活動の地域移行の現状と課題」 ・県スポーツ保健課長補佐より、山形県における運動部活動改革についての講演 ・管内市町の現状と課題等について情報交換	西川町役場
8月 5日	山形県市町村教育委員会大会 (豪雨のため中止)	南陽市
8月14日	二十歳を祝う会	西川交流センター
11月22日	教育委員・校長教頭合同研修会	西川町役場
1月14日	町総合表彰式	西川交流センター
3月31日	退職教職員感謝状贈呈式	西川町役場

教育委員会の活動状況に対する教育事務評価委員の評価・意見

- ・年間30回にも及ぶ会議・研修をこなし、子供達へのより良い教育が行える環境づくり等にご尽力されている教育委員会関係者に感謝申し上げます。
- ・基本計画について共通の理解が得られ、計画された活動が滞りなく遂行されている。
- ・他市町の教育委員会との交流の機会や情報交換や学習会のようなものはないのか。
- ・近年、全国各地でゲリラ豪雨、土砂災害等の自然災害が多発し、多くの尊い命が失われている。しかし、同じ災害でも「自助」「共助」により難を逃れた事例も多数報告されている。災害時において、日頃の地域の繋がりがいかに大切か、私も痛感させられている。西川町教育大綱、基本的方向性の「絆づくりと活力あるコミュニティの形成」にあるように、様々な企画を通し「災害にも強い町西川町」になることを願っている。

4 教育委員会事務事業に係る施策の体系

(1)教育委員会事務事業に係る計画の関連性



(2)西川町教育大綱の概要

①教育の基本理念

「ふるさとを愛し ふるさとに誇りを持ち
ふるさとの文化を高め 未来を拓く町民の育成」

②教育の基本目標

「自立」「協働」「創造」を基軸とした生涯学習社会の構築を目指す。

「自立」… 一人一人が多様な個性・能力を伸ばし、充実した人生を主体的に切り拓いていくことのできる生涯学習社会

「協働」… 個人や社会の多様性を尊重し、それぞれの強みを生かして、共に支え合い、高め合い、社会に参画することのできる生涯学習社会

「創造」… 自立、協働を通して更なる新たな価値を創造していくことのできる生涯学習社会

(3)4つの基本的方向性

①社会を生き抜く力の養成

社会が激しく変化の中で自立と協働を図るための能動的・主体的な力を誰もが身につけられるようにする。

②未来への飛躍を実現できる人材の育成

変化や新たな価値を主導・想像し、変革を実現する人材、グローバル社会に置いて書く分野を牽引できるような人材を養成する。

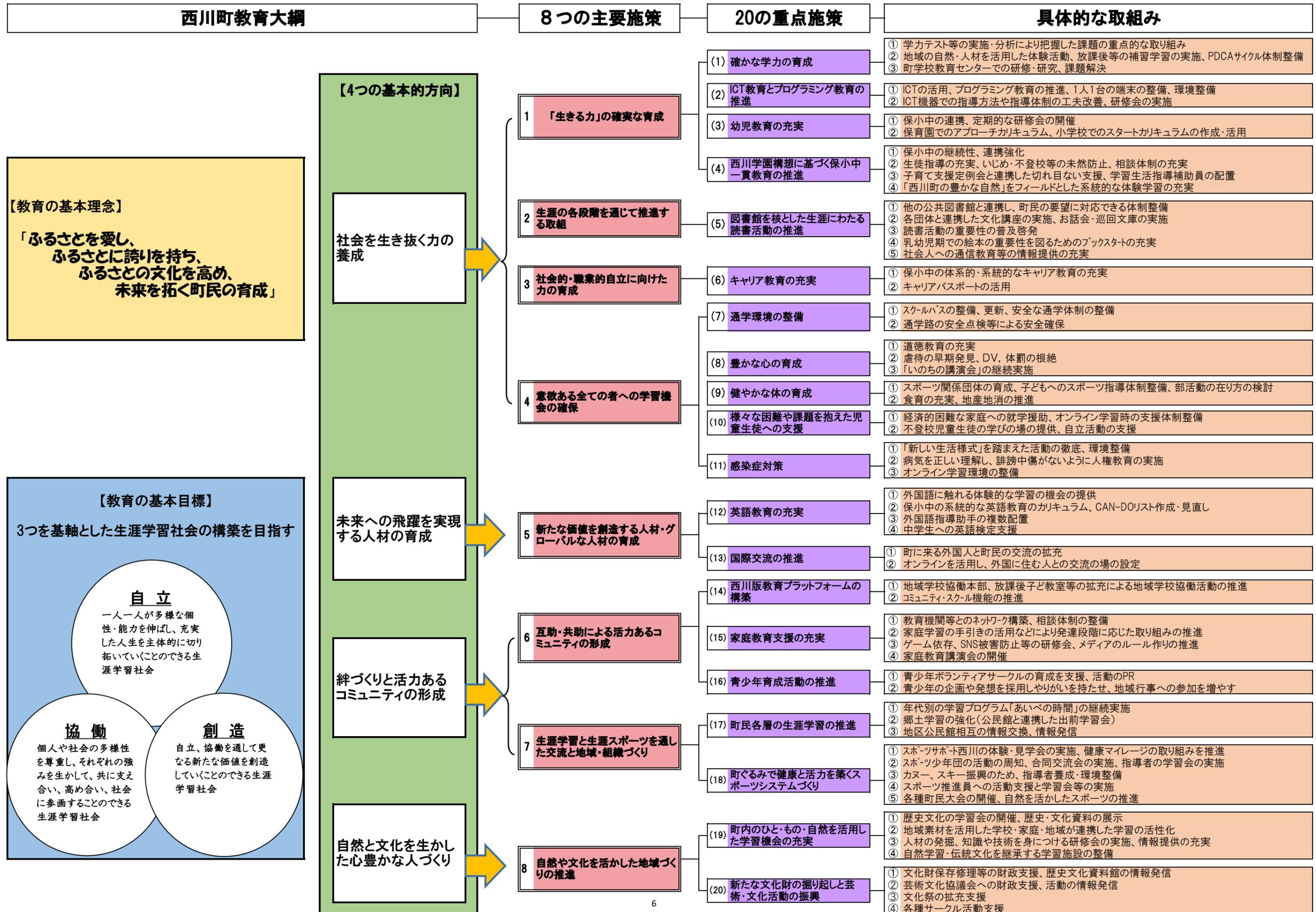
③絆づくりと活力あるコミュニティの形成

個々人の取り組みに委ねるのではなく、社会全体の協働関係において推進し、学校教育内外の多様な環境から学び、相互に支え合い、様々な課題の解決や新たな価値の創出を促す。

④自然と文化を活かした心豊かな人づくり

町の自然資源や文化財を大切に自然環境学習の一層の充実と、新たな文化活動に向けた取り組みを継続することで、心豊かな町民を育成していく。

(4) 西川町教育振興基本計画施策展開体系



5 事務事業点検・評価シート（8つの主要事業）

（1）「生きる力」の確実な育成

基本的方向1 社会を生き抜く力の養成 （1）「生きる力」の確実な育成

変化の激しい社会を生き抜くことができるよう、「生きる力」を一人一人に確実に身に付けさせることにより、社会的自立の基礎を培う。また、一人一人の適性、進路に応じて、その能力を最大限に伸ばし、よりよい社会をつくっていくために必要な資質を養う。

重点施策

（1）確かな学力の育成

（2）ICT教育とプログラミング教育の推進

（3）幼児教育の充実

（4）西川学園構想に基づく保小中一貫教育の推進

主な事業内容(■)成果(○)課題(△)

（1）確かな学力の育成

①学力テスト等の実施・分析により把握した課題の重点的な取り組み

■知能検査(小2、小4、小6、中1)、NRT(小2～中3)、QUテスト(全学年)、ハイパーQUテスト(小2～中3)、全国学力テスト(小6、中3)

○小中学校とも課題を分析整理し、学力向上のための取り組みを行っている。

授業研究会でもそれらの課題を解決していく取り組みが見られた。

△アンダーアチーバーの児童生徒が一定数見られる。さらに一人一人の児童生徒に応じた指導が必要だ。

※NRT : 標準化された学力検査

※QUテスト: 学校生活における児童紙生徒の満足感や意欲、学級集団の状態等を質問紙により測定するもの

※ハイパーQUテスト: QUの診断尺度に、対人関係を築く際に必要なソーシャルスキル尺度を追加したもの

②地域の自然・人材を活用した体験活動、放課後等の補習学習の実施、PDCAサイクル

体制整備

■中3を対象とした夏期受験対策講座

■地域の自然や人材を生かした体験活動(ふるさと楽行・中学校での総合的学習等)

○夏期受験対策講座により、中3の学習に対する意識の向上を図ることができた。

○小中学校で地域の自然や人材を活かした生活科・総合的な学習に取り組むことができた。

○カリキュラムマネジメントを行い、PDCAサイクルの体制整備を図っている。

△体験活動が学力向上に寄与するよう、普段の学習とのつながりを考えて取り組んでいく必要がある。

③町学校教育センターでの研修・研究、課題解決

■町学校教育センターでの全体研修会、合同授業研究会、課題に沿った研修会

○各部会で先生方が率先して、研究・情報共有に努め成果をあげることができた。

○PDCAサイクルが機能するよう、NRT分析のまとめ方を見直して取り組むことができた。

- 組織体制や会議の持ち方を見直し、効率的な運営ができた。先生方も課題意識を共有して取り組む姿が見られた。
- △学力向上や生徒指導の充実、心身の健全育成に結び付く研修になるような手立てを更に考えていく。

【今後の方針】

- ・今年度、知能テストの様式をNINOに変更した。教科横断的な「認知能力」を測り授業や学習の改善に役立てていきたい。
- ・アンダーアチーバーを減らすために、学校と連携して取り組んでいく。
※アンダーアチーバー：心理学で、健康・性格・環境などに原因があって、知能水準から期待される力よりはるかに低い学業成績を示す者

② ICT教育とプログラミング教育の推進

① ICTの活用、プログラミング教育の推進、1人1台の端末の整備、環境整備

- 学習支援ソフト(ミライシード)の導入、児童生徒用端末(305台)の保守契約
寄付により電子黒板の購入(R4小5台、中3台購入)等の環境整備
- 端末・学習支援ソフトの使用などにより、学習のデジタル化を図ることができた。
- 小中学校とも各教室に1台ずつの電子黒板を整備することができた。
- △中学校では技術家庭の時間を中心にプログラミング教育を実施しているが、小学校での取り組みがない。

② ICT機器での指導方法や指導体制の工夫改善、研修会の実施

- 一人一台端末、電子黒板の活用
- コロナ感染症で出席停止の場合も家庭でオンライン学習を行うことができた。
- 校務支援システムの導入を行い業務の効率化が図られた。
- △ICT機器を活用した授業方法について更に研修が必要だ。

【今後の方針】

- ・一人一台端末の活用を授業だけでなく、家庭学習と連動させて取り組んでいく。
- ・プログラミング教育の研修や教材の整備が必要。

③ 幼児教育の充実

① 保小中の連携、定期的な研修会の開催

- 幼児教育について研修会(保育園全職員、小中学校教員)
- 保育士も学校教育センターの構成員となるよう要項を見直し、小中の研修に参加できる体制を整えたことで、積極的に研修や会議に出席してくださり、共通理解を図ることができるようになった。また、気になる園児の様子を大沼心理士やSSWC、指導主事で見取りながら、園児への関わり方や就学の進め方について指導する体制づくりを推進した。

○寒河江市教育委員会指導主事よりご指導いただき、遊びの場の環境づくりや小学校とのつながりを意識した保育の在り方を学ぶことができた。

②保育園でのアプローチカリキュラム、小学校でのスタートカリキュラムの作成・活用

○西川小経営計画に記載し、保小の接続が円滑に進むよう取り組んだ。

○保育園の学びを共有することで、それを土台に1年生の学習がスタートするようになっている。

△小学校低学年の先生の要望で保育園の年間カリキュラムを共有したが、年度途中だったので、年度当初に共有できるようにする。

【今後の方針】

- ・保育園での研修の継続
- ・アプローチカリキュラム・スタートカリキュラムによるより一層効率的・効果的取り組みを行う。

(4) 西川学園構想に基づく保小中一貫教育の推進

①保小中の継続性、連携強化

■保小連絡会、小中連絡会、小中合同授業研究会

○保小中一貫教育の質的向上をめざすため、学校教育センター小中合同授業研究会への取り組みを改善し、小中教員の意識や情報の共有を進め、それぞれの強みを活かす体制づくりを行うことができた。

△学習歴や生活歴の幼小、小中の情報共有を進め、前段階に身に付けた能力を活かした学習や生活になるようにさらに配慮していかなければならない。

②生徒指導の充実、いじめ・不登校等の未然防止、相談体制の充実

■スクールカウンセラー（SC）、スクールソーシャルワーカー（SSW）の配置

■学校教育課での相談体制整備

○SC、SSWの配置を通して、相談体制の整備を図ることができた。

○学校教育課での相談室の利用があり、生徒や保護者との面談回数が増えてきた。

○別室登校の教室や学習ルーム等を整備し、担任の空き時間等を活用して、不登校傾向の生徒のフォローを行う様子が見えた。

△引き続き不登校解消に向けて西川中への指導や支援を行っていく。また、西川小においても、しなやかで強い心を育てることができるよう取り組んでいただく。町全体としては不登校児童生徒、または子ども達の第3の居場所づくりが必要だ。

※スクールカウンセラー（SC）：学校に配属され、生徒や教師の心のケアを行う人

※スクールソーシャルワーカー（SSW）：教育、社会福祉に関する専門的な知識や技術を有する人で、問題を抱えた児童生徒に対し、子どもが置かれた環境への働きかけや、関係機関等とのネットワークの構築など、多様な支援方法で課題解決への対応を図っていく。

③子育て支援定例会と連携した切れ目ない支援、学習生活指導補助員の配置

■月1回の子育て支援連絡会での情報共有

■学習生活指導補助員を小学校 5 名（7 時間 3 名、4 時間 1 名、3 時間 1 名）、中学校 2 名（7 時間 1 名、6 時間 1 名）配置

○個別の指導支援に対応することができた。

△個別の指導や支援が必要な児童生徒が複数存在するので、継続的な配置が必要である。

④「西川町の豊かな自然」をフィールドとした系統的な体験学習の充実

■保小中での自然体験学習を意識した取り組み

■小 5 を対象としたブナの森自然学校

■西川小学校全学年でのふるさと楽行

■西川中学校 1 年での月山をフィールドとした学習

○ふるさと楽校の取り組みを通して、地域の人材や自然に学ぶことができた。

○西川中での総合的な学習の時間の取り組みを見直し、系統的な探究活動ができるように改善している。

△地域の人材活用や新しい人材の掘り起こしを行っていく。

【今後の方針】

- ・ 自然環境や地域の人材を活用し〔逞しさ〕を育むための保小中一貫した取り組みを行う。

【教育事務評価委員より】

- ・ 確かな学力の育成に於いて学力テスト等の実施取組を行ったが、結果に対する課題などはなかったのか？ 今後の方針が課題なのか？ (2) (3) も同様。
- ・ 西川学園構想においては、保小中一貫教育は必須だと考える。また、町の豊かな自然をフィールドとした町独自の取り組みとして今後も続けて頂きたいと思う。
- ・ 各種の学力テストを実施することで客観的に児童生徒の学力の実態を把握することは、小規模学校にとっては特に意義があると思われる。大事なことは、その分析と生かし方ではないだろうか。
- ・ 今求められる学力とはどんなもので、西川の子ども達はどんな力が足りないのか、学校内では具体的に分析し指導に役立っているが広く理解を共有していくことが大事かと思われる。そのためにも、基本計画の「確かな学力の育成」に具体的に明記してはどうだろうか。町でめざす子ども像というのがより明確になるとと思われる。
- ・ 学力テストの評価は個々の子どもの課題を把握することと同時に、学校や教師の取り組みや指導を振り返るものでもあると思われる。子ども達の課題を受け、どう授業改善を進め、どんな事業やサポートをしているのか、目指す子どもの姿に結び付けて明記していただくとは分かりやすいのではないと思われる。
- ・ 今年度知能テストの様式を変更する等、様々な工夫を凝らしていると感じる。今後、変更したことによる効果についても学校と連携を密にし、検討していただきたいと思う。
- ・ ICT 教育とプログラミング教育の推進について、一人一台の端末整備となり、コロナ禍では非常に役立つものと思う。今後の方針にもあるように、使い方によってはもっと幅広い分野でも活用できると思うので、今後検討していただきたいと思う。

(2) 生涯の各段階を通じて推進する取組

基本的方向 1 社会を生き抜く力の養成

社会の中で自立し、他者と連携・協働しながら生涯にわたって生き抜く力や地域の課題解決を主体的に担うことができる力を身に付けられるようにする。そのために質の高い学習機会を充実させるとともに、学習成果が広く活用されることを目指す。

重点施策 (5) 図書館を核とした生涯にわたる読書活動の推進

実施状況(■)成果(○)課題(△)

(5) 図書館を核とした生涯にわたる読書活動の推進

①他の公共図書館と連携し、町民の要望に対応できる体制整備

○県立図書館等との相互連携（借受 576 冊）により、町民の要望に対応している。

②各団体と連携した文化講座の実施、お話し会・巡回文庫の実施

■西川中学校へ5月から12月までの8カ月間、月1回の巡回文庫の実施

■俳句を楽しむ会（せせらぎ俳句会）、おはなし会（ぴーつく）の開催

■ファンタイムライブラリー（尺八演奏会、まんが喫茶コーナー）

○初の尺八を用いたイベント開催により、幅広い年代の方の参加があった。まんが喫茶コーナーは好評であったため引き続き開催した。

③読書活動の重要性の普及啓発

■小学校低学年棟へ出張図書を行い、本に触れる機会を増やした。

■男女で本のアピールを行う紅白本合戦を行い、関心を持ってもらう機会の創出に努めた。

■初発指導として全学年を対象に、図書館の使い方のレクチャー及びブックトークの開催。

④乳幼児期での絵本の重要性を図るためのブックスタートの充実

■11、12 ヶ月健診時に親子にブックスタートの本2冊をプレゼントしている。

○本の読み聞かせをすることで赤ちゃんは心豊かに成長できる。

⑤社会人への通信教育等の情報提供の充実

■大学の通信教育等の情報や、就職情報等のチラシなどを館内に常備している。

【今後の方針】

- ・新たな利用者を増やすため、図書館主催のイベント、講座等の実施を継続
- ・高齢者層、図書館から遠い地域の町民へのサービス充実に努める。

【教育事務評価委員より】

- ・紅白本合戦は結果を楽しみながら、推しの本を選ぶことができ関心を持つ機会になったのではないか。
- ・ブックスタートも続けて頂きたい。
- ・中学校への巡回文庫による貸し出しの成果や、県立図書館との相互連携で町民がどのような要望があるか知りたい。
- ・生涯を通して社会を生き抜く力は、今大きく変化している。読書活動も大切ではあるが、他にも推進すべき取り組みがあるのではないだろうか。これからさらに必要になるだろうと特に高齢者が不安に思っているのが、ICTの活用だろうと思われる。ショッピング始め日常生活のあらゆる場面でICTの技術が使われていて、その知識や技術がないと生活に困難になることも予想される。今後はICTに関する取り組みなども考えてみてはどうか。
- ・読書活動の意義は児童生徒と一般町民とでは異なると思われる。ここではどちらも一緒に明記されているが、それぞれのねらいに応じて分けて記してはどうか。児童生徒にとっての読書は学習であり特に今求められる読解力や思考力や表現力を付けるためにはさらに力を入れていく必要があると思われる。また町民にとっての読書は楽しみであり強制ではない。ただ、まだまだ町民の図書館という意識は低いと感じる。たくさんの本や雑誌が町民の手に届きやすい環境を整えることが大事かと思われる。是非各地域への分館を進めていただきたい。
- ・ファンタイムライブラリー(尺八演奏会)について、幅広い年代の方が参加されたようで、今後も継続していただきたい。今後の課題にもあるように、若い年齢層だけでなく、高齢者層の参加しやすい環境を作りながら町民サービスに努めていただきたいと思う。

(3) 社会的・職業的自立に向けた力の育成

基本的方向1 社会を生き抜く力の養成

社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力や態度を身に付けるとともに、勤労観や職業観等の価値観を自ら確立できる子どもや若者の育成を目ざす。また、多様な職業生活に必要な知識や技能を生涯のどの時期においても身に付けられるようにする。

重点施策 (6) キャリア教育の充実

実施状況(■)成果(○)課題(△)

(6) キャリア教育の充実

①保小中の体系的・系統的なキャリア教育の充実

■中2での職場体験学習

○西川中の職場体験学習トライやるウィークを開催し、町内の業者や施設の様々な仕事を体験することができた。地域支援コーディネーターより、新たな体験事業所を開拓していただいた。

②キャリアパスポートの活用

△取り組みについての現状把握を行っていく。キャリアの記録方法について、検討の余地がある。

※キャリアパスポート：小学生から高等学校までのキャリア教育に関する活動について記入し、記録を集積していく。

【今後の方針】

- ・トライやるウィークでは、受け入れ事業所の新規開拓を行い、仕事の多様性を学ぶことができるようにする。
- ・キャリアパスポートを有効に活用してもらい、自尊感情を高めるようにしていく。

【教育事務評価委員より】

- ・職場体験学習は続けて頂きたい。
- ・キャリアパスポートについての内容詳細を教えてください。
- ・社会の変化に伴い子ども達は以前よりも早い段階から自分の特性や興味や学びと職業を結びつけて考える力が求められている。今年度知能テストの様式をNINOに変更し、個々の子どもの特性を把握できるようにしたことは良いことだと思う。自分にはどんな特性があるのかを知り伸ばしていくことが、しいては職業選択に通じるものと思われる。社会的・職業的自立に必要な力は目に見える学力だけではなく、自己有用感・対人関係力・適応力など生きた学びが身に付いていることが最も大切だと思われる。①の「生きる力の確実な育成」とも関わるが、是非一人一人の個性をとらえ伸ばす教育を加えていただきたい。自己有用感を育てていくことは、不登校問題にも通じるのではと思われる。
- ・中2での職場体験については、町内の業者や施設を体験ですが、町内には無い多様な職業を体験させるには、町外業者への職業体験も検討していただければ幅広い体験が出来ると思う。

(4) 意欲ある全ての者への学習機会の確保

基本的方向 1 社会を生き抜く力の養成

様々な困難や課題を抱えて支援を求めるものに対して、生涯を通じて多様な学習機会を確保する。また、安心で安全な教育環境の整備に取り組む。

重点施策

(7) 通学環境の整備

(8) 豊かな心の育成

(9) 健やかな体の育成

(10) 様々な困難や課題を抱えた児童生徒への支援

(11) 感染症対策

実施状況(■)成果(○)課題(△)

(7) 通学環境の整備

① スクールバスの整備、更新、安全な通学体制の整備

■ 29人乗りスクールバス購入（13号車）

■ 法定点検、修繕、スタッドレスタイヤ購入、IP無線での安全確認等

○ スクールバスについて、計画的な更新が図られた。

○ 対話会を開催し、小学校の徒歩通学区域の保護者の要望により冬期間のバス通学を実施した。

○ 運行形態、路線が複雑になっており、全体的な見直しや学校、運行業者、教育委員会での3者で打合せを実施した。

○ 対話会の要望により、夏季に自転車通学している中学生については令和5年度よりいつでもバス通学を可とする準備を進めた。

△ 統合して10年経過し、児童生徒数も減少していることから今後検討が必要。

△ 要望のあった冬期間西間沢・宝沢の児童のバス通学については課題

② 通学路の安全点検等による安全確保

■ 年2回の合同点検

■ 交通生活安全対策協議会での育成会からの要望に基づいた対応

■ スクールガードリーダー2名配置

○ 合同通学路点検を行い、危険個所の把握と安全確保を行うことができた。

△ 未修繕箇所の整備の要望を行っていく。

【今後の方針】

- ・ 計画的なスクールバス更新
- ・ 通学路の定期的な安全点検と危険箇所の改善及び要望を行っていく。
- ・ 必要に応じて対話会を開催していく。

(8) 豊かな心の育成

① 道徳教育の充実

■ 人権教育の推進

○ 人権の花植え等町の事業を活用しながら積極的に取り組まれている。

②虐待の早期発見、DV、体罰の根絶

- 健康福祉課との連絡体制、情報共有に努めている。
- 子育て支援会議で情報共有や対策について協議され、重大な事案は発生していない。

③「いのちの講演会」の継続実施

- 小学校、中学校での性教育講演会
- 児童生徒のいのちを大切にする意識を高めることができた。

【今後の方針】

- ・人権教育研究の成果を活かし、自身および他を尊重しながら生きる素地を養う取り組みを行う。
- ・特別の教科道徳の学習を通して豊かな心を育成する。
- ・図書館と連携し、家庭での読書活動を推進する。

(9) 健やかな体の育成

①スポーツ関係団体の育成、子どもへのスポーツ指導体制整備、部活動の在り方の検討

- 部活動指導員の配置
- 部活動大会補助
- 部活動指導員を配置し、水泳大会への引率や遠隔地での部活動への支援を行うことができた。
- 部活動の地域移行については、西村山教育委員研修会での情報共有、西村山母親委員会での西川町の事例発表、保護者への情報提供などを行った。
- △地域移行への新しい枠組み、体制づくりが必要だ。

②食育の充実、地産地消の推進

- 小・中学校では、食育に関する目標、重点、年間指導スケジュール等の食育指導計画に添った取り組み
- 学校栄養士による食育指導、給食便り発行
- 健康福祉課で作成した健康レシピ集を給食メニューに取り入れている。
- 放課後子ども教室で食生活書推進員による朝ごはんの大事さ及び味覚教室の実施
- 給食食材として町内産の野菜・米を使用

【今後の方針】

- ・土日のスポーツ活動に対する環境整備を行うことも含めた部活動の地域移行の推進

(10) 様々な困難や課題を抱えた児童生徒への支援

①経済的困難な家庭への就学援助、オンライン学習時の支援体制整備

- 就学支援制度の周知（個人通知、PTA総会資料と一緒の配布）
- 就学支援児童生徒へのモバイルルーターの無料貸し出し
- 家庭での通信環境を整えるため、必要な家庭にルータの貸し出し
- △就学支援制度の規準を満たす児童生徒に対して支援漏れの無いよう、関係各課と連携し更に制度の周知に務めていく必要がある。

②不登校児童生徒の学びの場の提供、自立活動の支援

- ぴーちくLOVEにしかわの立ち上げ、相談室の開設、周知を図るためのイベント開催
- スクールソーシャルワークコーディネーターを配置し、各事業の計画立案を行った。
- 居場所づくり・相談室の立ち上げ、ぴーちくLOVEの立ち上げを行い、イベント等を開催しながら、周知を図ることができた。

【今後の方針】

- ・就学支援制度の周知の徹底（健康福祉課との連携、お知らせ版での周知）
- ・不登校児童生徒の相談室、居場所づくりの推進、関わってくれる地域住民を増やす。

(11) 感染症対策

①「新しい生活様式」を踏まえた活動の徹底、環境整備

- 新型コロナウイルス感染対策として以下の内容で環境整備を図った。
- ・小学校：西山材パーテーション（8基）、感染対策資機材（消毒液等）
- ・中学校：感染対策資機材（Co2測定器、体温計等）

②病気を正しい理解し、誹謗中傷がないように人権教育の実施

- 文書等で周知し、折に触れて指導を行った。

③オンライン学習環境の整備

- オンライン学習がいつでもできるよう、タブレット家庭学習デーの取り組み
- 一人一台の端末整備し、出席停止の際も可能な限りリモート学習を行った。

【今後の方針】

- ・感染対策に必要なものの予算化等状況に応じた感染症対策を実施

【【教育事務評価委員より】】

- ・小学校で冬季間、間沢特に西間沢の父兄の方々からはバス通学の話はなかったのか？
- ・中学校においては、自転車通学の生徒に対し自己判断で使用が可能になったことは良かったと思う。
- ・不登校児童生徒の相談室・居場所づくり、今後うまく活用して頂きたい。（不登校0が理想ですが）
- ・対話会を開催し、保護者の要望に応じて児童生徒のバス通学を実施できたことは良かった。今後も柔軟な対応をしていくことが望まれる。
- ・部活動の任意加入について；地域にスポーツ団体が無い西川町においては部活は必要なものと思われる。時間を制限しての取り組み、勝利至上主義でなく体力や仲間づくりをねらいとした継続可能な方法を考えていきたいものだ。中学生は体力づくりのために運動がかかせない時期であり、全員にその機会と場を提供していただきたい。
- ・不登校児童生徒の学校とのつながりを切らさないようにしたい。学びの環境を整えることを大事にし、次の段階に進むことのできる学力を付けていきたい。そして一歩前に進もうとする意

欲や希望をもてるようにしたいものだ。

- ・通学環境の整備について、スクールバスのＩＰ無線の活用等、非常に柔軟に対応していると感じる。

（５）新たな価値を創造する人材・グローバルな人材の育成

基本的方向２ 未来への飛躍を実現する人材の育成

豊かな語学力やコミュニケーション力を備えた世界に通用する人材を育成すると同時に、日本や異文化のよさも理解し、社会の各分野で活躍できる人材を養成する。

重点施策

(12) 英語教育の充実

(13) 国際交流の推進

実施状況(■)成果(○)課題(△)

(12) 英語教育の充実

①外国語に触れる体験的な学習の機会の提供

■小学6年生のブリティッシュヒルズでの外国語宿泊研修の実施

○外国語宿泊研修や学校にネイティブスピーカーが常勤していることで、英語でのコミュニケーションをとることができている。

②保小中の系統的な英語教育のカリキュラム、CAN-DO リスト作成・見直し

○ALT を中心に英語教育の推進を図ることができた。

△CAN-DO リストを活かした学習の更なる展開が必要である。小学校時の英語学習の成果を検証するため、令和4年度から中学1年生も英語のNRTを実施し、小学校時の学習の成果を測定できたが、標準点に至っていない部分がある。

③外国語指導助手の複数配置

■町職員、ALT2名体制の継続

○保小中での英語学習、外国語活動ができた。

△ALTとしての資質能力の向上を図る。

④中学生への英語検定支援

■中3英検受検料補助

△60%の利用率。受験者数（チャレンジする気持ち）を増やしていきたい。

【今後の方針】

- ・ネイティブスピーカー、外国人と億劫なくコミュニケーションできる力を育むため、現在実施している事業の継続
- ・ALTによる西川町版英語検定を実施し、コミュニケーション力の向上を図る。
- ・NRTによる学力の把握、分析、学力向上のための対応策

(13) 国際交流の推進

①町に来る外国人と町民の交流の拡充

■台湾師範大学と西川中学校生徒との対面交流

△コロナ禍の影響もあり交流の機会は少なかった。

②オンラインを活用し、外国に住む人との交流の場の設定

■台湾南湖小と西川小とのオンラインでの交流会

【今後の方針】

- ・来町した外国人と町民・児童生徒の交流機会の提供
- ・オンラインを活用した外国人との交流機会の提供

【教育事務評価委員より】

- ・ALT 2名体制は英語教育に於いて大きな効果があると思う。
- ・国際交流について、町内の企業に外国からの研修生がいますが、その方達との交流はどうでしょうか？（子供と大人になりますが）
- ・中3英検受験料補助、今年度全員対象素晴らしいことだと思う。全員合格目指してください。
- ・数年前より英語力が高まっていることすばらしい。継続した指導の賜物だ。
- ・台湾南湖小学校の子ども達が西川町に来校したことはあったが、反対に西川町の子ども達が台湾へ行くことはないのか。生きた学びができるものと思われる。
- ・ALTも2名体制となり、外国語に触れ合うこと、また、国際交流の推進として、台湾師範大学との対面交流も実施され、子供達にとって非常に貴重な体験となったと思う。今後も、オンラインを活用した交流も含め継続していただきたい。

(6) 互助・共助による活力あるコミュニティの形成

基本的方向3 絆づくりと活力あるコミュニティの形成

個々人の多様な学習活動の実施や参画により、家庭や地域のネットワークを広げ、互いの支え合いや助け合いによる、活力あるコミュニティを作っていく。特に学校や社会教育施設を地域の振興に貢献する拠点と位置づけ、協働体制を整備しながら、住民の地域社会への参画を拡大していく。

点施策重

(14) 西川版教育プラットフォームの構築

(15) 家庭教育支援の充実

(16) 青少年育成活動の推進

実施状況(■)成果(○)課題(△)

(14) 西川版教育プラットフォームの構築

①地域学校協働本部、放課後子ども教室等の拡充による地域学校協働活動の推進

- 小学校（ふるさと楽行・校外学習・スキーやカヌー教室等）、中学校（総合学習・月山フィールドワーク）、放課後子ども教室（民謡教室等各種教室）での地域住民の参画が図られている。
- 放課後子ども教室において、希望する全児童が利用できるようになり登録者数は67名
- 放課後子ども教室において、スポーツまつり、ハロウィンパーティなどイベントを積極的に開催
- 子ども教室で地域の方々の協力によるイベントには多くの児童が参加
- 子ども教室のスポーツまつりなどのイベントで、協力している多くの地域住民も参加し、住民同士の交流もできた。
- △児童や保護者の意見を吸い上げられる運営になるようにしていく。

②コミュニティ・スクール機能の推進

- 学校運営協議会の開催
- 熟議のみならず、学校と連携した取り組みを行おうとする機運が高まってきた。
- △熟議が実行に移せる体制づくり

【今後の方針】

- ・学校と地域が連携して、それぞれの課題を解決できる取り組みを目指していく。
- ・サポーターズバンクの整備と学校地域パートナー会議の再編

(15) 家庭教育支援の充実

①教育機関等とのネットワーク構築、相談体制の整備

- スクールソーシャルワーカーを中心に、課題を抱える保護者への相談対応を行った。健康福祉課とも情報共有しているが、一層の連携を取っていく必要がある

②家庭学習の手引きの活用などにより発達段階に応じた取り組みの推進

- △学習状況調査から、家庭学習の時間が短い状況がうかがえる。家庭学習の手引きを確実に活

用しながら取り組んでいく必要がある。

③ゲーム依存、SNS 被害防止等の研修会、メディアのルール作りの推進

■学校・PTAによるメディアに関するルールづくり

■中学校でメディアコントロールの取組み実施

■小学校では生活リズム強化週間（メディアコントロール）の取組みを実施

△学校教育センターの部会で調査・研究を行った成果を各家庭での実践に結び付ける必要がある。

④家庭教育講演会の開催

■小学校において講演会を開催し、保護者への啓蒙を図る予定。中学校においては家庭教育の補助金を活用していないが、PTA 行事の一貫として生徒と保護者が一緒に講演会を行った。

【今後の方針】

- ・家庭学習、メディアコントロール等の課題についての教育委員会、学校、PTAが連携した取り組みの推進
- ・保育園、小・中学校での家庭教育に関する講演会支援
- ・学校教育センターにおいて、家庭学習の手引きの見直しとデジタル化

(16) 青少年育成活動の推進

①青少年ボランティアサークルの育成を支援、活動のPR

■color's によるボランティア活動、各種事業への運営協力

△コロナ禍であったため、活動はできなかった。

△イベントスタッフや、図書館の本の清掃、放課後子どもプランのイベント協力等の活動をサポートしていく。

②青少年の企画や発想を採用しやりがいを持たせ、地域行事への参加を増やす

■地域活動の手法等を学び合う MY ボランティアスキルアップセミナーへの参加

△青少年が地域活動を始めやすい環境を整備することが求められている。

【今後の方針】

- ・放課後子ども教室でのボランティア活動を多く設定していく。
- ・中高生が地域の祭りや伝統芸能などの地域活動に企画段階から参画するなど主体的な活動を推進

【教育事務評価委員より】

- ・放課後子ども教室に年数回お邪魔していますが、子供達の元気な姿を見てパワーをもらっている。
- ・これからも住民を巻き込んでの協働体制をより強化し、コミュニティを形成して頂きたいと思う。
- ・これまでと同様「家庭学習の時間が短い状況」とあるが、原因をどう考えるか。小学校の子ども達はバスを待つ時間にほぼ宿題を終えている。家庭では自学をしているとしても、漢字や計算ドリルなどは短時間で終わってしまうだろう。
- ・もっと長く学習してほしかったら、子ども達に好きなことややりたいことをさせてはどうか。
（将棋の藤井氏はずっと将棋をしていたらしい。「博士ちゃん」というTV番組には自分の好きなことにとことん熱中している子ども達が出ている。）家庭での時間の過ごし方を自分でデザインし実行し、それを表現して提出させるというもの。以前であれば、日記であったが、表現の仕方は自由である。自分で自分の時間をコントロールする力や自分は何をしたいのか考え自分自身を知る力、継続することで企画力なども身に付くかもしれない。これからは与えられた仕事を従順にやるだけの仕事はなくなる。求められる力はどんなことなのかを考え、家庭学習の内容ややり方を考えていくことが必要かと思われる。
- ・放課後子ども教室については、核家族の増加に伴い保護者として非常にありがたい政策であると思う。

(7) 生涯学習と生涯スポーツを通じた交流と地域・組織づくり

基本的方向3 絆づくりと活力あるコミュニティの形成

地域や町民のニーズに対応した適切な学習機会を社会教育施設等において提供する等、総合的に支援するシステムを構築し、交流による地域づくりを促進していく。

重点施策

(17) 町民各層の生涯学習の推進

(18) 町ぐるみで健康と活力を築くスポーツシステムづくり

主な事業内容(■)成果(○)課題(△)

(17) 町民各層の生涯学習の推進

①年代別の学習プログラム「あいべの時間」の継続実施

■あいべの時間プレミアム(10/16) 実施

○講師もスタッフも参加者も町民…と体験を通して多くの町民が交流できる場となっている。

また、今年度は、町体育協会の協力を受け、スポーツ関係団体からの関わりを得て、より多くの町民が顔を合わせる機会となっている。

- ・参加人数 300人
- ・体験内容 月山和紙すき、こけし 絵付け、絵手紙、華道、茶道、けん玉体験／ミニ大会、けん玉ショー、ウエイトトレーニング紹介、体協・スポサポ・スポ少等紹介ブース設置(17団体)

○町体育協会からの協力を得て、スポーツ関係団体の紹介等をお行えたことで広がりを持てて良かった

■なでしこアカデミー 年間2回 参加45人

- ・内容 美アップトレーニング講座(女性対象 11/17)実施
味噌づくり講座(女性対象 2/19)実施 同時開催 おさがり会

○LOVEらぼ(代表:松田あゆみ)に業務委託の形式で実施、自主運営に向けた取組みを推進

②郷土学習の強化(公民館と連携した出前学習会)

■丸山薫少年少女文学賞「青い黒板賞」第29回応募総数589点

○青い黒板賞の応募点数は増加している。

③地区公民館相互の情報交換、情報発信

■～人とつながり地域をつくる～ 令和4年度町公民館長会議「交流座談会」

3/13実施 13公民館のうち11館の出席

「ONSEN・ガストロノミーについて」

月山朝日観光協会事務局長 高橋 諒 氏

一度西川に遊びに来たら、心をつかんで離さない「つながり」をテーマにした講演会の開催。

△人口減少により各地区公民館の事後の存続が課題になってきている、公民館の在り方を含めどうしていくのかが、大きな課題である。

【今後の方針】

- ①公民館・各種生涯学習関係団体・関係組織の主体的活動促進
 - ・生涯学習係と中央公民館による実態把握と適切な支援
- ②時代の要請、町民のニーズにフォーカスした生涯学習事業の戦略的展開
 - ・コミュニティの担い手育成と DX を中核に据えた人材育成

【18】町ぐるみで健康と活力を築くスポーツシステムづくり

①スポーツサポート西川の体験・見学会の実施、健康マイレージの取り組みを推進

- スポサポ西川の事業展開 令和4年度開催教室（9教室を延べ211回、会員約150名が延べ2,081人参加）※前年度比：教室数+5、開催数+88、会員数+30、延べ参加数738
- 町民の生涯スポーツに関してある程度のニーズに応えている。
- △生涯学習課が運営事務の一部を担っており、完全自立はまだ困難である。
- 健康福祉課主管健康マイレージ事業との連携 生涯学習関連の各種事業や町民スポーツ大会等でポイントスタンプ獲得。スポーツ推進委員が各種大会や教室開催の折に事業のPRを担う。
- コロナのため各地のミニデイはまだまだ開催されず。町民スポーツ大会は少しずつ開催されるも規模縮小。
- △コロナの影響によりイベント等の規模縮小あるが、PR方法も検討の余地あり。

②スポーツ少年団の活動の周知、合同交流会の実施、指導者の学習会の実施

- 令和4年度団編成 4団体83名（指導者数16名）
- 西川町・大江町スポーツ少年団合同わくわく交流スポーツ教室（12/11実施）
- 山形県スポーツ少年団指導者研修会（10/22実施）
- スポーツ活動だけでなく、交流活動などの幅広い分野を体験し、協調性や礼儀等を学ぶことにより健全な人間育成に役立っている。
- △少子化による団員数の減少による団の維持が困難になってきている。

③カヌー、スキー振興のため、指導者養成・環境整備

- 町のスポーツ「カヌー」「スキー」の普及振興と競技力向上
- 小学校での体験授業や全国大会等での町出身選手の活躍
- △今後の安定的な競技人口の確保と指導者の養成、会場の環境整備

④スポーツ推進委員への活動支援と学習会等の実施

- 軽スポーツ出前教室、健康マイレージ事業推進
- 老若男女が取り組むことができるラジオ体操とけん玉のスキルアップ
- △出前教室の開催促進、委員の更なるスキルアップ

⑤各種町民大会の開催、自然を活かしたスポーツの推進

- 各種町民スポーツ大会
- 令和4年度の各種大会はほぼ開催（家庭婦人バレーのみ中止）
- カヌーとスキーはニーズを捉え別イベントへシフト
⇒カヌー：MOLDOVA CUP（ホストタウンレガシー事業として）

⇒スキー：Nishikawa Ski JONDAZNE Championship (ゲレンデスキー)

○町駅伝大会は今年第 69 回。第 70 回大会までは公民館の負担軽減やふるさと選手ルールの規制緩和を図りながら開催し、再来年の新たな大会の在り方を探る。

○町体育協会の事業補助の増額支援（町委託金に上乘せ、申請事業上限数の引上げ）

△まだまだコロナの影響により活動は停滞気味

【今後の方針】

①健康づくりスポーツシステムの構築

- ・年代各層に適応できる種々の可能性を持つ「けん玉」を中核に据えて

②各種スポーツ大会の持続可能な持ち方への転換

- ・関係団体との綿密な連携による実施方法等の見直し

③スポーツサポート西川の運営支援

- ・指導者の確保と運営スタッフの養成等

④部活動の地域移行に向けた課題把握と環境整備

- ・中学校、体育協会、各種スポーツ団体間の連携強化による環境整備

【教育事務評価委員より】

- ・「あいべの時間」のようなプログラムがある場合、個人的には出来るだけ参加するよう心がけている。今後も継続実施をお願いします。
- ・スポ少は少子化により団の維持が困難になりつつありますが、町外のクラブに参加している子供達もいるようだ。
- ・スポーツシステムの構築では、いろいろな可能性を持つ「けん玉」を中核にとありるが、年齢に関係なく取り組むことができるスポーツだと思う。最強と言われる「ラジオ体操」等もできればと思う。高齢化率の高い町民の健康づくりのために進んで行って頂きたい。
- ・各競技団体のこれからの大会運営、部活動の地域移行等々、まだまだこれから大変なことが多いようだ
- ・町のスポーツカヌー・スキーの普及振興」とあるが、町民にもカヌーやスキーができる機会や環境作りをしていただきたい。
- ・カヌーの町を町民も実感できるように、希望者がカヌー体験ができるイベントを設けてはどうか。
- ・高齢者でもスキーができる人は多いと思われる。ただスキーが古くなって使えないためにスキーをしたくてもできない人がいるかもしれない。貸しスキーと靴を設置できないだろうか。生涯スポーツや冬の健康作りにも通じるとと思われる。
- ・「あいべの時間プレミアム」では、体験内容が多数で、幅広い年代に対応している非常に良いイベントと感じる。
- ・開催時期も考慮しながら、開催数を増やしても良いのではないか。
- ・けん玉の活動については、老若男女が行う事ができ健康にも非常に良いということで、出前教室等での活動を HP で紹介し、更新することでより多くの人に興味を持っていただけないか。

(8) 自然や文化を生かした地域づくりの推進

基本的方向 4 自然と文化を生かした心豊かな人づくり

本町には、古くから出羽三山信仰などによりもたらされた文化的遺産や民俗伝承、月山・朝日連峰、寒河江川ど豊かな自然が創り出した美しい景観があり、また、大井沢地区では、大井沢小中学校と地域の人と一緒に、朝日連峰の大自然のもとに全国に先駆けて自然研究・自然学習が取り組まれてきた。また、手付かずの自然が今も多く残されている月山山麓には、野外での自然学習施設として、県立自然博物館がある。これらの自然資源や文化遺産を大切に、自然学習、新たな文化活動に向けた取組みを継続する。

重点施策

(19) 町内のひと・もの・自然を活用した学習機会の充実

(20) 新たな文化財の掘り起しと芸術・文化活動の振興

主な事業内容(■)成果(○)課題(△)

(19) 町内のひと・もの・自然を活用した学習機会の充実

① 歴史文化の学習会の開催、歴史・文化資料の展示

■ 町歴史文化学習会 6 回開催、自主運営組織として

○ 学習会、は毎回 20 人程度の受講者がいる。実行員会を組織し、自主運営の形態で活動を行っている。

△ 学習会参加者の固定化

② 地域素材を活用した学校・家庭・地域が連携した学習の活性化

■ 西川小学校での町内各地区を会場とした「ふるさと楽行」や、ブナの森自然学校の実施

○ 企画の段階から学校と地域の連携が図られている。

③ 人材の発掘、知識や技術を身につける研修会の実施、情報提供の充実

■ 大井沢自然博物館への学芸員の配置

○ カエル、イワナ等をはじめ、触れて、感じ、体験できる生きた生物の展示による、発見の機会を創出できるあらたな展示の実施

④ 自然学習・伝統文化を継承する学習施設の整備

■ 歴史公園に駐車場を整備

○ 安中坊のガイドクラブの組織化（自主）、歴史公園の更なる活用が課題

△ 自然学習フィールド（大井沢地内）の今後のあり方の根本的な検討が必要

△ 各施設における案内ガイド（ボランティア）の養成

【今後の方針】

① 「あいべ」と各種生涯学習関連施設、各町有施設間の連携

・ 「町の歴史」とのマッチングによる西川町及び関連施設のPR

(20) 新たな文化財の掘り起しと芸術・文化活動の振興

① 文化財保存修理等の財政支援、歴史文化資料館の情報発信

■ 歴史公園駐車場の整備、町文化財等への保存管理費の負担等

○ 町歴史文化資料館入館者数 2, 105 人 町ホームページ等での企画展の案内

△文化財指定及びその後の保存等に関して所有者との関わりの持ち方

②芸術文化協議会への財政支援、活動の情報発信

■町芸術文化協議会に対する補助及び会場使用料の補助（1/2）

△加盟団体の高齢化による会員数の減少による活動の縮小と新たな団体の取り込みを行なっていくことによる芸文協組織の継続性

③文化祭の拡充支援

■展示点数 969 点、ステージ発表 18 団体、入場者数：作品展示 425 人、ステージ発表約 210 人

○あいべ大ホール音響設備の更新

④各種サークル活動支援

■各種教室への開催負担を行いながら、自主運営に向けた取組みを強化

△コロナ流行に伴う、活動の休止や弱体化

【今後の方針】

①伝承活動等継承の持続可能な新たな仕組みづくり

- ・地域の実情に基づいた、伝承活動の全町的取組み

【教育事務評価委員より】

- ・町内各地区を会場とした、「ふるさと楽校」の実施は町が誇れる活動だと思う。
- ・大井沢自然博物館への学芸員の配置は、大変良いことだと思います。子供達に限らず訪れた人々が今までに無い体験が出来そうだ。
- ・コロナ禍で、地区で行われていた伝統芸能等、子供達への伝承がなくなりつつあるように思われる。
公民館等と連携を取りながら維持可能な伝承活動が出来ないものかと思う。
- ・町内各地区を会場とした「ふるさと楽行」はこれまでの継続により学校側も地区においても定着してきていると思われる。新学習指導要領の実施に伴い、そのねらいや活動内容などについて見直す必要はないだろうか。
- ・「ふるさと楽行」をきっかけにして児童自ら課題を持って学習したり行動したりできる力に結び付けたい。また普段の学習に「ふるさと楽行」がどれくらい生かされているのか。
- ・「企画の段階から学校と地域の連携が図られている」とあるが、この中に「児童」が入っていない。主体的な学びの創造が求められている今、子ども達の意欲や興味関心を加えることが必要かと思われる。受け身的な活動から必要感をもった子ども主体の活動へと見直すことも必要かと思われる。
- ・(19) ②に「ブナの森自然学校」について載せられていないが、「ふるさと楽行」と同様に地域素材を活用し学校と連携した学習だと思われる。あえて載せていないのには理由があるのだろうか。
- ・小学校での町内各地区を会場とした「ふるさと楽行」は、西川町の自然、歴史に肌で触れる良い機会となっていると思う。中学校でもそういった取組みをしてみるのも、小学生の時とは見方も変わり、より興味を持たせることができるのではないか。

6 教育事務評価委員の意見（総括）

【教育事務評価委員より】

- ・教育の基本理念・基本目標・4つの方向性・8つの主要施策・20の重点施策の計画のもと、一つ一つ着実に取り組み、教育振興基本計画（後期プラン）の施策評価において全ての評価が、十分達成に近づくように8つの主要施策の今後の方針や評価の視点等を課題とし進めて頂きたいと思う。
- ・目まぐるしく変化している現代、AIのさらなる進出によりさらに大きな変化が予想される。そんな世の中を心豊かにたくましく生き抜いていくために必要な力を身に付けていくことは、子ども達だけに限らず全世代に必要なことと言える。盛んに「学び直し」という言葉を聞くが、これまで身に付けてきた力だけでは足りないのは確かなことだ。どんな学びが必要なのか、教育委員会では様々な観点から必要な資質や施策を考え、具体的な取り組みを実施していただき感謝したい。今後はチャット式AIの普及によりさらに深刻な課題が出てくると思われるが、広く社会の変化や世界の情勢に目を向け新たな取り組みにも果敢に挑戦していただきたい。
- ・西川町で育って、育てて良かったと思えることは、自立の基礎「知・徳・体」を身に付けられたことかと思う。とくに自然の中での暮らしや体験を通しての生きた学びを育んでいただいた。自然や人との直接的な交流を通して学ぶことは、これからも大事にしていかなければならないと思う。「心の豊かさ」や「たくましさ」は、AIからは学べないと思う。本物とのふれあいが価値をもち意義あるものとなると思う。
- ・教育委員会の活動につきましては、様々な工夫を凝らしながら、検討していただいていると感じる。改善箇所は改善し、たくさんの方から意見をいただきながら、改良に改良を重ね、より良い事業を展開していただきたいと思う。

西川町教育大綱に基づく

『第1次教育振興基本計画(後期プラン)』の施策評価から

※ 下記評価は、教育委員会による内部評価（教育委員による評価と、学校教育課・生涯学習課の評価を総合したもの）である。

教育大綱：基本理念（西川町教育目標）

ふるさとを愛し、ふるさとに誇りを持ち、
ふるさとの文化を高め未来を拓く町民の育成
～真の豊かさを求めて～

教育大綱：教育の本目標

「自立」「協働」「創造」を基軸とした生涯学習社会の構築を目指す

教育大綱：基本的方向性に係る評価

評価順位	基本的方向	評価
1	自然と文化を活かした心豊かな人づくり	2.94
2	社会を生き抜く力の養成	2.74
3	絆と活力あるコミュニティの形成	2.54
4	未来への飛躍を実現する人材の育成	2.44
平均値		2.67

- ◎ 町の持つ資源（自然や文化）を活かすという方向性に属する施策に関しては、概ね成果が上がっている。
- 社会力や持続可能なコミュニティの形成という方向性に属する施策に関しては、一定の成果が見られるものの更なる取り組みが求められる。
- 未来や外に向かう人材育成という方向性に属する施策に関しては、課題がある。

教育振興基本計画：8つの主要施策に係る評価

評価順位	主要施策	評価
1	意欲あるすべての者への学習機会の提供	2.98
2	生きる力の確実な育成	2.97
3	自然や文化を活かした地域づくりの推進	2.94
4	互助・共助による活力あるコミュニティの形成	2.63
5	社会的・職業的自立に向けた力の育成	2.63
6	新たな価値を想像する人材・グローバルな人材の育成	2.44
	生涯学習と生涯スポーツを通じた交流と地域・組織づくり	
8	生涯の各段階を通じて推進する取組	2.38
平均値		2.68

- ◎ 町の持つ資源（自然や文化）を活かし生きる力を育む学習機会を保障するという柱に属する施策については成果が見られる。
- 社会力を育み互助・共助のコミュニティを構築するという柱に属する施策については、一定の成果が見られるものの更なる取り組みが求められる。
- 自らの可能性を高める創造的な人材育成と、生涯学習・スポーツの好循環を促し活力あるコミュニティを構築するという柱に属する施策については、課題がある。

教育振興基本計画：20の重点施策に係る評価

評価順位	重点施策	評価
1	幼児教育の充実	3.50
2	町内のひと・もの・自然を活用した学習機会の充実	3.38
3	感染症対策	3.25
4	西川学園構想に基づく保小中一貫教育の推進	3.00
	西川版教育プラットフォームの構築	
	通学環境の整備	
	豊かな心の育成	
8	健やかな体の育成	2.88
9	英語教育の充実	2.75
	確かな学力の育成	
	様々な困難や課題を抱えた児童生徒への支援	
12	ICT教育とプログラミング教育の推進	2.63
	キャリア教育の充実	
	家庭教育支援の充実	
15	町民各層の生涯学習の推進	2.50
	新たな文化財の掘り起こしと芸術・文化活動の振興	
17	町ぐるみで健康と活力を築くスポーツシステムづくり	2.38
	図書館を核とした生涯にわたる読書活動の推進	
19	青少年育成活動の推進	2.25
20	国際交流の推進	2.13
平均		2.76

- ◎ 教育センターによる保小中一貫教育の研修等による幼児教育の充実が図られている。
- ◎ 町の教育資源やスクールバス有効活用、確かな感染症対策による学習機会の充実が図られている。
- ◎ 町民参加型の教育プラットフォーム西川を基盤とした保小中一貫コミュニティスクール西川学園によって、健やかな体と豊かな心が育まれている。
- 町民各層のニーズに応える生涯学習、芸術文化活動の振興、確かな学力・ICT（プログラム）教育・キャリア教育や家庭学習・家庭教育については、更なる施策の継続が求められる。
- 広い視野を養う国際交流・次代の担い手を育む青少年育成活動・町民のウェルビーイングを支える町ぐるみのスポーツシステムづくり・生涯にわたる読書活動に関しては、課題が多く抜本的な施策の工夫と改善が求められる。

※ 参考：評価の色分け

十分達成	達成	概ね達成		不十分	全く不十分
4	4>0≥3.5	3.5>0≥3	3>0≥2.5	2.5>0≥2	1

西川町教育大綱に基づく『第1次教育振興基本計画(後期プラン)』施策評価

＝第2次 教育振興基本計画策定に係る基礎資料＝

基本理念

「ふるさとを愛し、ふるさとに誇りを持ち、ふるさとの文化を高め未来を拓く町民の育成 ～真の豊かさを求めて～

基本目標

「自立」「協働」「創造」を基軸とした生涯学習社会の構築を目指す

十分達成	達成	概ね達成	やや不十分	不十分	全く不十分
4	4>0≥3.5	3.5>0≥3	3>0≥2.5	2.5>0≥2	1

西川町教育大綱		教育振興基本計画（後期）					
基本方向	主要施策	20の重点		施策の評価			評価・改善の視点の視点
				総合	教育委員	事務局	
1. 社会を生き抜く力の養成	2.97 生きる力の確実な育成	(1)	確かな学力の育成	2.75	2.50	3	<ul style="list-style-type: none"> ■目に見える学力としての各種テストの成績は標準を越えていない教科や学年が見られる。個別最適化、学び合いを推進する授業や授業・体験活動等を通じた非認知能力の育成を更に進める必要がある。 ●小学校4学年辺りより学力の二極化が進んでいく様子が著明に感じられる。子どもであろうと敏感に集団の中での序列を感じ、その関係性の中で一度生まれた劣等感から容易には抜け出すことが出来なくなり、次第に無気力、諦め、逃避行動に移っていくように感じている。「学ぶことって面白い」という感覚が「自分の力・生きる力」となっていくという「気づき」を低学年から得られる環境を構築してもらいたい。
		(2)	ICT教育とプログラミング教育の推進	2.63	2.25	3	<ul style="list-style-type: none"> □ICTを活用した授業に取り組んでいる。コロナ感染症による出席停止の場合もリモート授業を行い、学びを止めない学校運営がなされている。 □中学校の技術科を中心にプログラミング教育を推進。 ●プログラミング教育の実態が全く見えてきていない。
		(3)	幼児教育の充実	3.50	3.00	4	<ul style="list-style-type: none"> □学校教育センターで保育園研修を継続的に開催し、職員が積極的に保育環境の改善に努めている。 □小学校でも保育園で育んだ資質能力を活かしたスタートカリキュラムを推進している。
		(4)	西川学園構想に基づく保小中一貫教育の推進	3.00	3.00	3	<ul style="list-style-type: none"> □学校教育センターでの取り組みを中心に、保小中の連携が深まっている。系統的な体験学習を充実させている。
	2.74 生涯の各段階を通じて推進する取組	(5)	図書館を核とした生涯にわたる読書活動の推進	2.38	2.75	2	<ul style="list-style-type: none"> □図書館イベント「ファンタイムライブラリー」の開催、町報への図書館コーナーの掲載、図書館だよりの発行等、図書館に足を運んでもらうきっかけづくりを行っている。 ●ここ数年読書活動の推進に目新しい取り組みが成されているとは感じられない。図書館発信のイベントは増えているようには感じるが「生涯にわたる読書活動」を担うような推進活動は展開できているだろうか。読み聞かせの会の方々の活動などは、高齢者を対象とした普及なども行っているだろうか。現在の取り組みの主軸が見えず、焦点が狭すぎるのではとの印象を持っている。
		(6)	キャリア教育の充実	2.63	2.25	3	<ul style="list-style-type: none"> □地域の人材に学ぶ活動や自然体験活動、さらには児童生徒の地域貢献活動を通して、キャリア形成を図る取り組みが充実してきている。
		(7)	通学環境の整備	3.00	3.00	3	<ul style="list-style-type: none"> □スクールバスの定期的整備、計画的更新を実施。定期的に通学路点検を実施し、改善事項については、その都度実施及び要望を行っている。
	2.98 意欲あるすべての者への学習機会の提供	(8)	豊かな心の育成	3.00	3.00	3	<ul style="list-style-type: none"> □「いのちの講演会」を継続して実施し、参加者からも高い評価を得ている。虐待の早期発見、DV、体罰の根絶に努めている。
		(9)	健やかな体の育成	2.88	2.75	3	<ul style="list-style-type: none"> □食育の充実、地産地消に透し込んでいる。スポーツ関係団体の積極的な取り組みがなされている。 ●主要対策の中でこの分野において、この項目への施策展開が一番弱いと感じている。
		(10)	様々な困難や課題を抱えた児童生徒への支援	2.75	2.50	3	<ul style="list-style-type: none"> □就学支援の周知を健康福祉課と連携して実施、オンライン学習用モバイルルーター貸出の実施。 □不登校子ども・保護者の相談窓口の開設、周知のためのイベントはコロナで計画より少ない実施。
		(11)	感染症対策	3.25	3.50	3	<ul style="list-style-type: none"> □新しい生活様式を踏まえた活動の実施、コロナ対策用備品整備。オンライン学習環境整備済。 ◎感染防止対策の基準に沿った対応をしている。 ◎コロナ禍においても大きな混乱もなく学校生活を行っている。

十分達成	達成	概ね達成	やや不十分	不十分	全く不十分
4	4>0≥3.5	3.5>0≥3	3>0≥2.5	2.5>0≥2	1

西川町教育大綱		教育振興基本計画（後期）					
基本方向	主要施策	20の重点		施策の評価			評価・改善の視点の視点
				総合	教育委員	事務局	
2. 未来への飛躍を実現する人材の育成 2.44	新たな価値を創造する人材・グローバルな人材の育成 2.44	(12)	英語教育の充実	2.75	2.50	3	<p>□ALTを複数配置し、外国語に触れる活動に積極的に取り組んでいる。中学生への英検支援を行い、自ら受験している。</p> <p>●西川町の人的環境からも、もっともっと質の高い教育が目指せるのではないかと期待している。コミュニケーション英語をメインとしたクラブ活動や生涯学習としての英会話教室など学び直しの場の提供等、今後の取り組みにも期待したい。</p>
		(13)	国際交流の推進	2.13	2.25	2	<p>■2月に台湾師範大学が西川訪問時中学校との交流の実施。交流の機会が少なかった。</p>
3. 絆と活力あるコミュニティの形成 2.54	互助・共助による活力あるコミュニティの形成 2.63	(14)	西川版教育プラットフォームの構築	3.00	3.00	3	<p>□小学校（ふるさと楽行・校外学習・スキー・カヌー教室等）、中学校（総合学習・月山フィールドワーク等）放課後子ども教室（民謡教室等各種教室）での地域住民の参画が図られている。</p>
		(15)	家庭教育支援の充実	2.63	2.25	3	<p>□SSWCによる相談窓口を開設、福祉関係機関や学校との連携も図った。家庭教育講演会は、コロナの影響で保育園は未実施、小学校は実施、中学校は別の内容で実施。</p>
		(16)	青少年育成活動の推進	2.25	2.50	2	<p>■青少年推進員による自発的な活動を推進していく。中学生ボランティアサークルColor'sの活動の場を提供していく。</p>
	(17)	町民各層の生涯学習の推進	2.50	3.00	2	<p>□けん玉を通じた世代間交流。コロナでほとんど実施されていないが、各地区ミニデイで子どもたちがけん玉先生となって地域の高齢者と共に健康づくりとコミュニケーション構築。</p> <p>○コロナが落ち着いてきたので、また全町民を対象にした講演会や音楽会などの開催をお願いしたい。</p>	
	生涯学習と生涯スポーツを通じた交流と地域・組織づくり 2.44	(18)	町ぐるみで健康と活力を築くスポーツシステムづくり	2.38	2.75	2	<p>■けん玉を通じた子どもと高齢者層に展開する仕組みは実践中だが、30～50歳代に展開する仕組みを企画検討中（スポサポけん玉教室に送迎する保護者を巻き込む仕組み）。</p> <p>◎スポサポやクラブなどを通してスポーツを楽しむ人が多くいる。</p> <p>●スポーツ推進委員の存在意義や活動内容の反省も含め、スポーツシステムといえるようなものは何もできていないに等しいと感じている。中学部活動の地域移行化に伴い、大きな課題となってくる項目だと感じる。</p>
4. 自然と文化を活かした心豊かな人づくり 2.94	自然や文化を活かした地域づくりの推進 2.94	(19)	町内のひと・もの・自然を活用した学習機会の充実	3.38	3.75	3	<p>□「あいべの時間」を開催して、多くの方々に広範囲な学びと交流の機会を提供している。</p> <p>◎小学校でのふるさと楽行の取り組みやブナの森自然学校などがコロナ禍であっても継続できている。</p> <p>◎西川町は学習資源が実に豊かで、他市町と比べても郷土を学ぶ探求教育の実践も大変充実していると感じている。今後も更なる学びの質の向上を期待している。</p> <p>◎「ふるさと楽行」の取り組みを評価する。</p>
		(20)	新たな文化財の掘り起こしと芸術・文化活動の振興	2.50	3.00	2	<p>■文化財登録に関しては、候補があるが、管理の問題等があり進捗していない。</p> <p>■芸術・文化活動の振興として、町文化祭での発表の場を提供していく。</p> <p>◎安中坊の整備や中学校での伝統芸能の継承などが地域を越えて行われている。</p> <p>○西川町において民謡や民舞、郷土芸能に加え、子どもたちだけで活動を続けている日本舞踊教室も県内に誇れるレベルの活動を20年近く維持してきている。この分野は、スポーツのように表彰されることもなく脚光を浴びることもなく、世間からはごく一部の人の娯楽と捉えられがちだと感じている。古典芸能を受け継ぎ日々鍛錬を積んでいる子どもたちの活動が評価されることなく、門下を後にする子たちをずっと見てきた。是非、芸術・文化の振興へも力を注いで欲しいと切に願っている。</p>